

# 県外展示会に向けたブランディング支援

会社名 株式会社ダイドウ(高知県)

社長:宮尻千恵子 創業:平成46年1月 高知市加賀野井で給排水設備・上下水の工事業。東日本大震災を契機として、断水時にも稼働する循環式水洗トイレを開発。

## 1. 相談のきっかけ

- ・創業以来、技術力はあるものの下請けの管工業者に留まっていた。
- ・東日本大震災時に、最も困ったことがトイレ。特に女性が困ったと聞き、女性社長ならではの視点で「循環式水洗トイレリサイくるん」を開発。
- ・県外の展示会へも出展し、取引拡大を目指し取り組んできたが、なかなかうまく伝わらない。



当拠点よろず支援拠点にデザイナーのCoが配置されていることを聞き、販促物等の悩みを相談に来訪。

## 2. 課題整理・分析

### ・強み

- ①給排水衛生設備工事で培った現場での技術が高い。
- ②小規模企業でありながらも、製品改良し、特許を取得するなど開発力がある。
- ③仮設トイレのほとんどは木材を使用しない中、県産材を用い、オンラインの付加価値を付けている。

### ・追い風

- ①高知県が戦略産業として防災産業を位置つけて振興している。
- ②水のないところでも清潔な、女性でも使えるトイレの存在が強く求められた。



### ・目指す方向

- 一貫したイメージの統一。
- ターゲットに訴求し、意図通りに認識させること。

## 3. 解決策の提案

- ・デザイナーのCoがブランドコンセプトを設定し、ロゴやイメージの方向性について提案。



- ・循環サイクル、エコ、排水がゼロ、水洗などの特徴がイメージできるロゴマーク案を提示。
- ・ロゴマークやビジュアルイメージは、名刺、リーフレット、WEBなどにおいて、統一的に使用。
- ・販売促進ツールを書き出し、展示会に向けスケジュールを作成。



## 4. 成果

- ・ロゴマークを一新し、展示会、イベント(「震災対策技術展」横浜 H28.2.4~5や四国環境技術・製品展示会 四国局 H28.2.9~10等)でロゴを一新し、名刺やパンフレット、webを用いて広報。
- 統一したイメージを訴求することができた。



高知市立潮江中学校(学校防災)  
処理槽:埋設、トイレユニット:プレハブ工法

デザインを一新



リサイくるん  
循環式水洗トイレ



NEWラインナップの木材仕様の可搬型1ユニットタイプ  
トイレユニット+処理ユニットを一体化



「震災対策技術展」横浜での出展状況

- ・ブランドイメージが確立され、認知度が増した。



- ・顧客や消費者の関心が高まり県外からの引き合いが増えた。
- ・会社の経営陣に今後の「自信」が生まれた。

→首都圏での取引拡大に対応するため、平成28年8月に文京区に東京支店を開設。